

中学生の「税についての作文」

大川市教育長賞

「税金があるから生きていける」

大川市立大川桐英中学校

三年 今山 愛夕美

私は小さい頃、百円ショップで買い物をしていた。確実に百円の物なのにお会計すると百八円払わなければいけないことに不満に思っていた。「なんで八円増えるの。」親に聞いてもその頃の私にとって難しい話だった。だから無駄な八円だと思い「ぼったくりだ。あの八円は店員さんが全部貰っちゃうんだ。」と今考えるとバカバカしく思っていた。しかしその八円は消費税という私たちにとってとても大事な税金だとは気づいていなかった。

中学生になり、租税教室が開かれ税金の大切さについて薄々気づいてきた。そこで、ある一本の動画を見た。税金のなくなった世界についての動画だった。その動画で私は何度も衝撃を受けた。まず道路にゴミが放置されていたり穴があいているという交通整備ができていない世の中だった。そして、どろぼうが侵入したり、家が燃えたりしても警察や消防士を呼べない世界になっていた。でも一番衝撃だったのは、子供が学校に行けていなかったことだ。なんで学校にすら行けないのか気になったため、調べてみた。すると、教科書や机は税金で買われていると書いてあった。現在、学校に行けてい

るのは税金のおかげだということだと知ると、更に税の大切さについて理解が深まった。でも、あの八円はどこに行くんだろうと気になり租税教室で貰ったプリントを見返していた。私がまだ小さい頃は消費税八%だったが現在は十%、つまり百十円になるわけだ。とにかく調べた。すると「消費税はそのほとんどが社会保障の財源に使われています。」と書いてあった。私は少し関心を持ち、更に文を読んでいた。驚いた。なぜかというところ「十%の消費税のうち九割は、年金・医療・介護・子育てなどの社会保障に使われています。」と書かれていたからだ。だから税金がないと生きていけないのかと改めて思った。

租税教室を通して、今まで税金の大切さを知らなかった私から、税金のない世界は有り得ないと思える私に変わることができました。

これから買い物などする時は、消費税がかかっても、社会のための募金と思っていきたいです。

